

# 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

## 現状・課題

成人期まで使える情報共有ツールが無い  
所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである  
新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

## めざす姿

当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある

各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある

## 取組内容

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)がかわる時に、「発達障がいの特性」「ニーズ」「支援の方向性」などの引継ぎが適切に行われていない(行われている)状況と原因を明らかにする 「他都市への調査」「医療、福祉、教育、就労等の各関係機関への調査」
- 【2】 共有すべき「特性、ニーズ等の情報」「支援内容」を整理し、「切れ目のない支援の引継ぎ」を補完するための「情報共有ツール」を作成する
- 【3】 地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する

29年度は、他都市への調査、各関係先への調査を実施し、支援の引継ぎの現状と課題を把握・分析する。  
調査結果については、HPを通じて広く公表するなど「支援の引き継ぎの重要性」についての理解促進や意見収集につなげる

## スケジュール

### 【1】 (29年度) : 「支援の引継ぎ状況」・「支援に必要な情報」の調査

【調査先】

当事者・保護者、医療機関、相談機関、福祉サービス事業所、所属校園、企業、民生委員など市民活動支援員、弁護士等司法関係者、区役所 など

【調査方法】

聞き取り、個別送付 など 調査では、支援の引継ぎに関して「上手くいった事例」「上手くいかなかった事例」の収集も行う。

調査を通じた支援の引継ぎの  
重要性に関する理解の促進・共有

### 【2】 (29～30年度) : 「ワーキングチーム」での調査分析

発達障がいのある方に関わる 各機関の実務者等で構成された「ワーキングチーム」を設置し、【1】の調査結果及び他都市の状況を踏まえ課題等を分析する

### 【3】 (30年度～) : 調査分析結果のHPでの公表・意見収集

### 【4】 (30年度以降～) : 「ワーキングチーム」での情報共有ツール作成、支援の仕組みづくりの検討